



2018年3月期 第2四半期 決算説明会

2017年12月4日

リバーエレクトック株式会社

(JASDAQ : 6666)

1. 2018年3月期 第2四半期 決算概要

執行役員総務本部長 大柴 公基

2. 2018年3月期 通期業績予想

および今後の取り組みについて

代表取締役社長 若尾 富士男

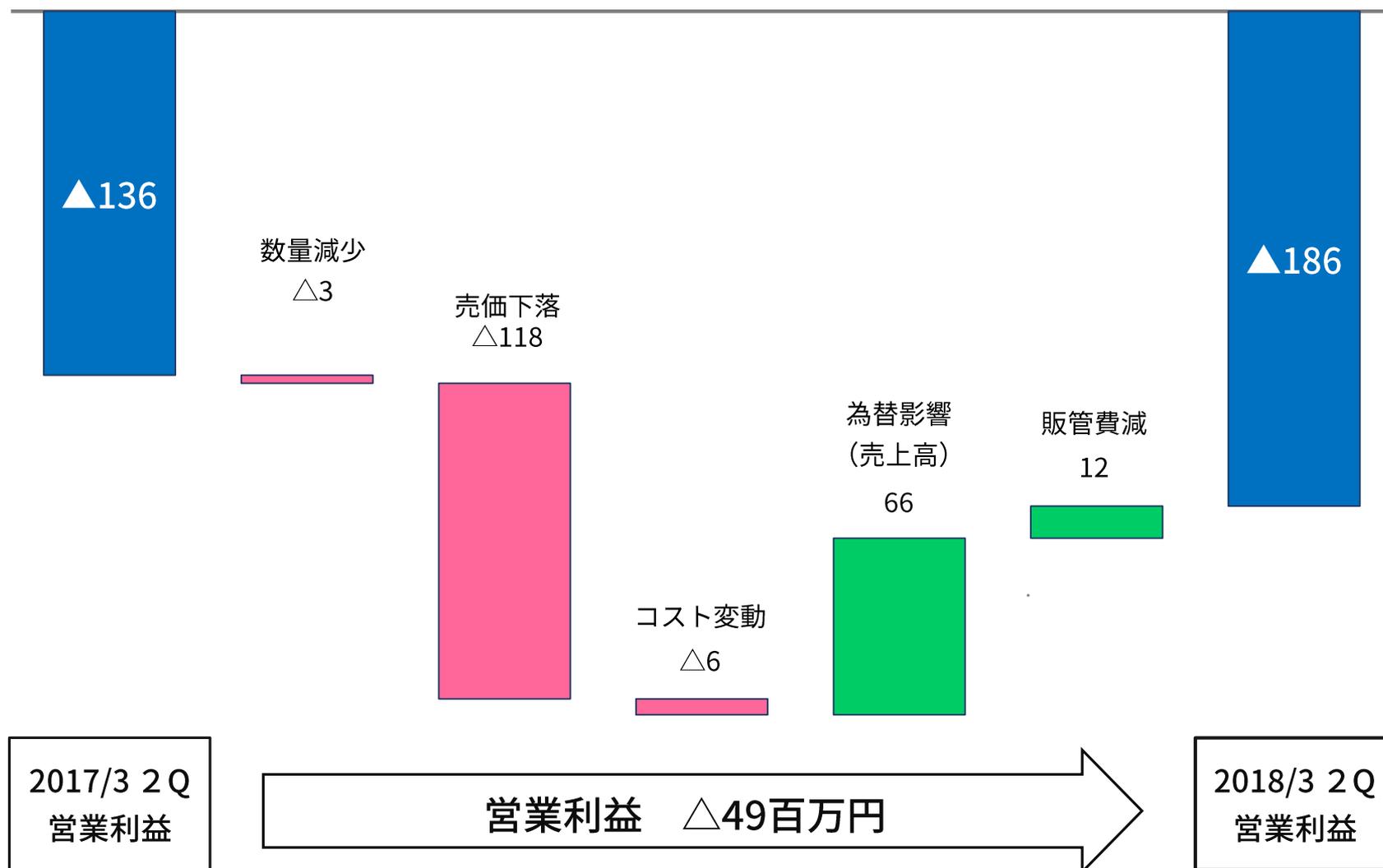
1 . 2018年3月期 第2四半期 決算概要

執行役員総務本部長 大柴 公基

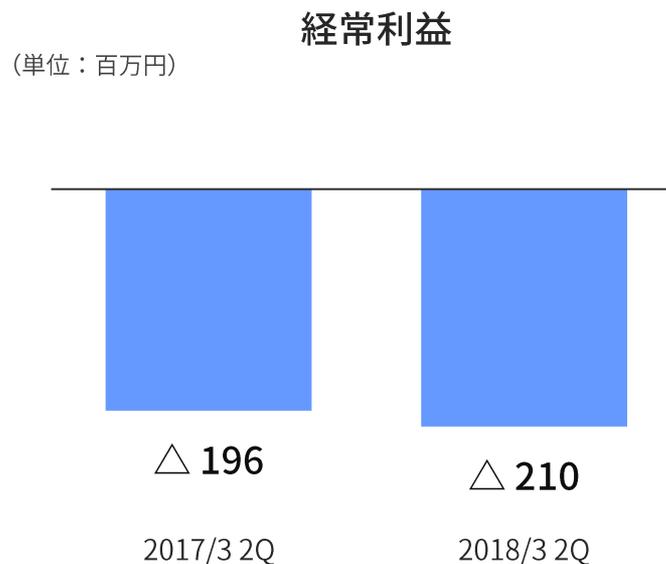
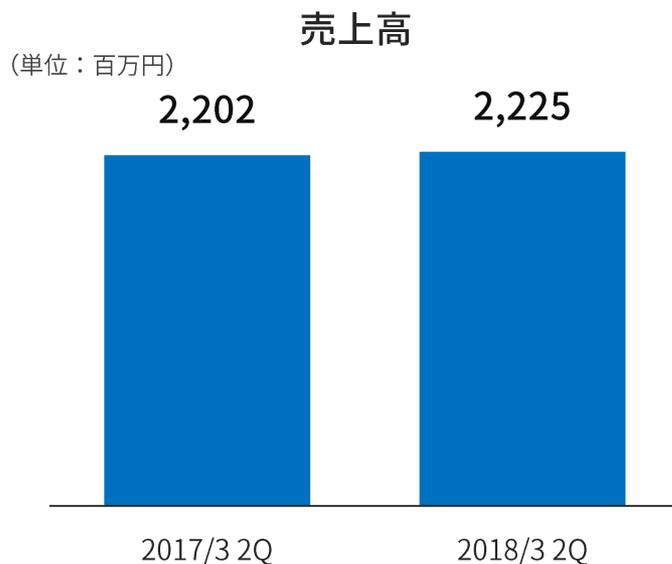
(単位：百万円)

	2017/3期 第2四半期 実績	2018/3期 第2四半期 期初予想 (5/12)	2018/3期 第2四半期 実績		
				対前年同期 増減額	対前年同期 増減率
売上高	2,219	2,319	2,243	24	1.1%
営業利益	△136	△158	△186	△49	—
売上高営業利益率	△6.2%	△6.8%	△8.3%	—	△2.2pt
経常利益	△193	△178	△209	△15	—
売上高経常利益率	△8.7%	△7.7%	△9.3%	—	△0.6pt
親会社株主に帰属する 四半期純利益	△201	△181	△212	△11	—
為替レート (対USドル)	102.91円	115.00円	112.00円	—	—

(単位：百万円)

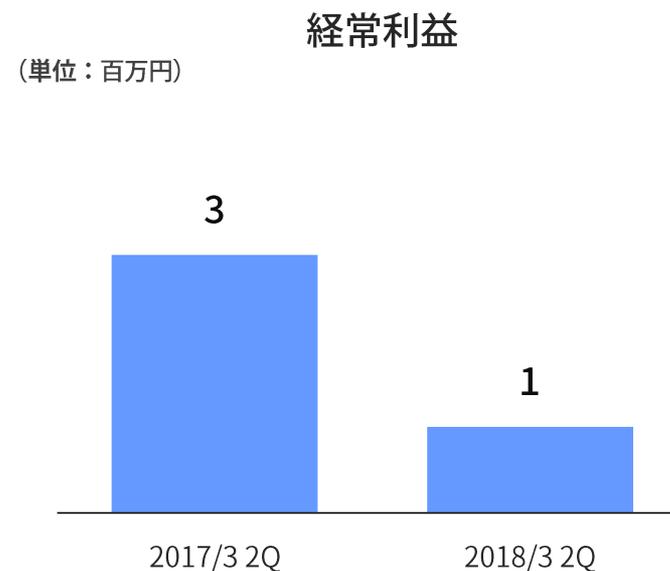
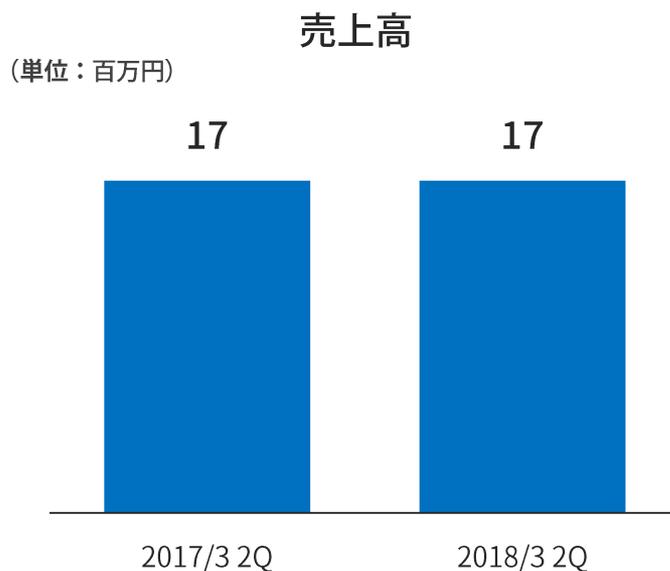


- スマートフォン向けの受注減少や販売価格下落あるも、無線モジュール向けが好調に推移し、微増収
- 販売価格下落による収益性悪化等により経常減益



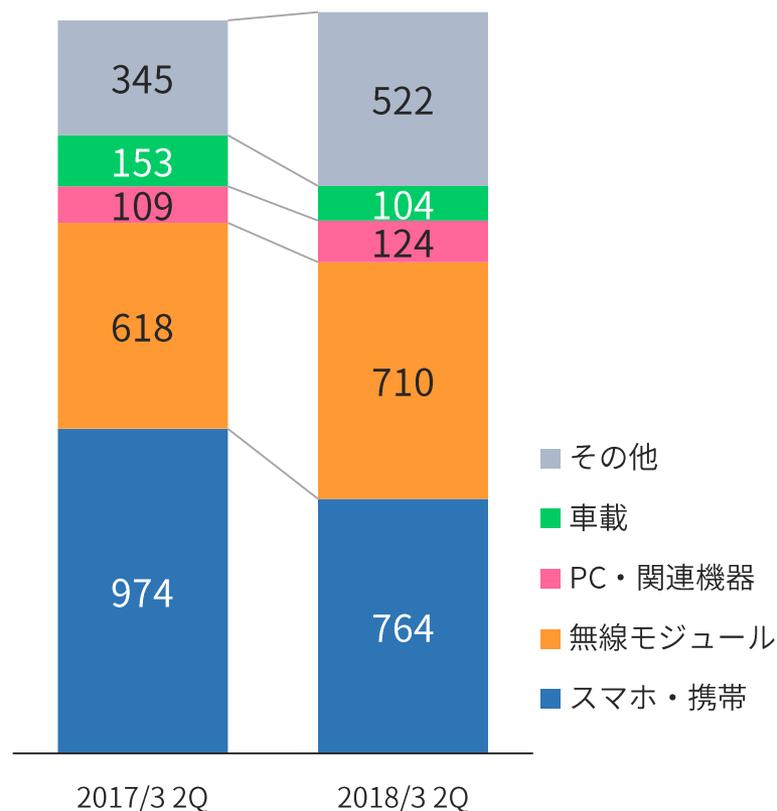
	2017/3 2Q	2018/3 2Q	増減額	増減率
売上高	2,202	2,225	23	1.1%
経常利益	△196	△210	△13	—
経常利益率	△8.9%	△9.5%	△0.5pt	—

- AV機器関連の需要は減少したものの、車載関連の需要増加により微増収
- 抵抗器の需要減に伴う収益性悪化により経常減益



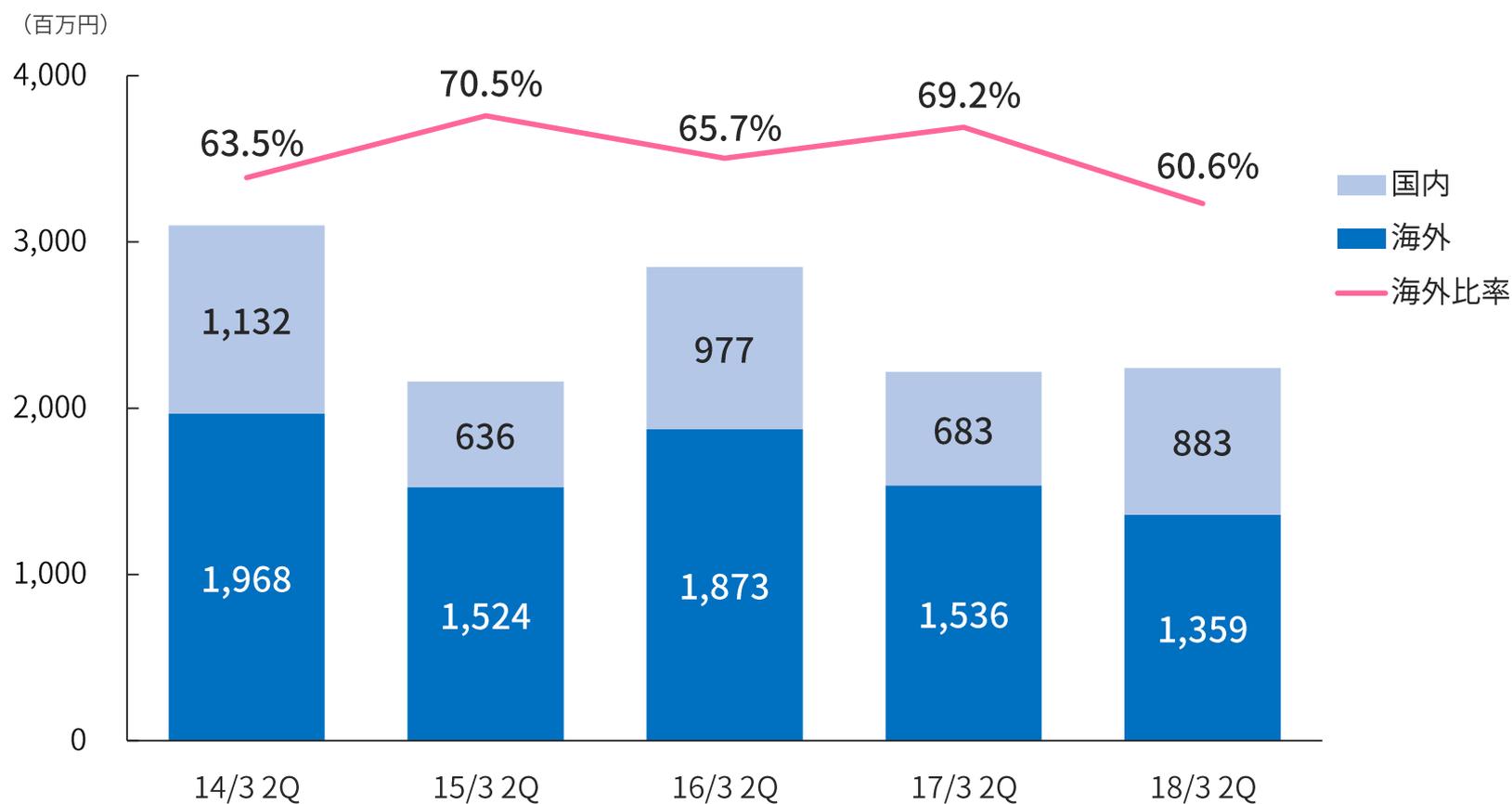
	2017/3 2Q	2018/3 2Q	増減額	増減率
売上高	17	17	+0	2.0%
経常利益	3	1	△1	△62.6%
経常利益率	18.3%	6.7%	△11.6pt	—

(単位：百万円)

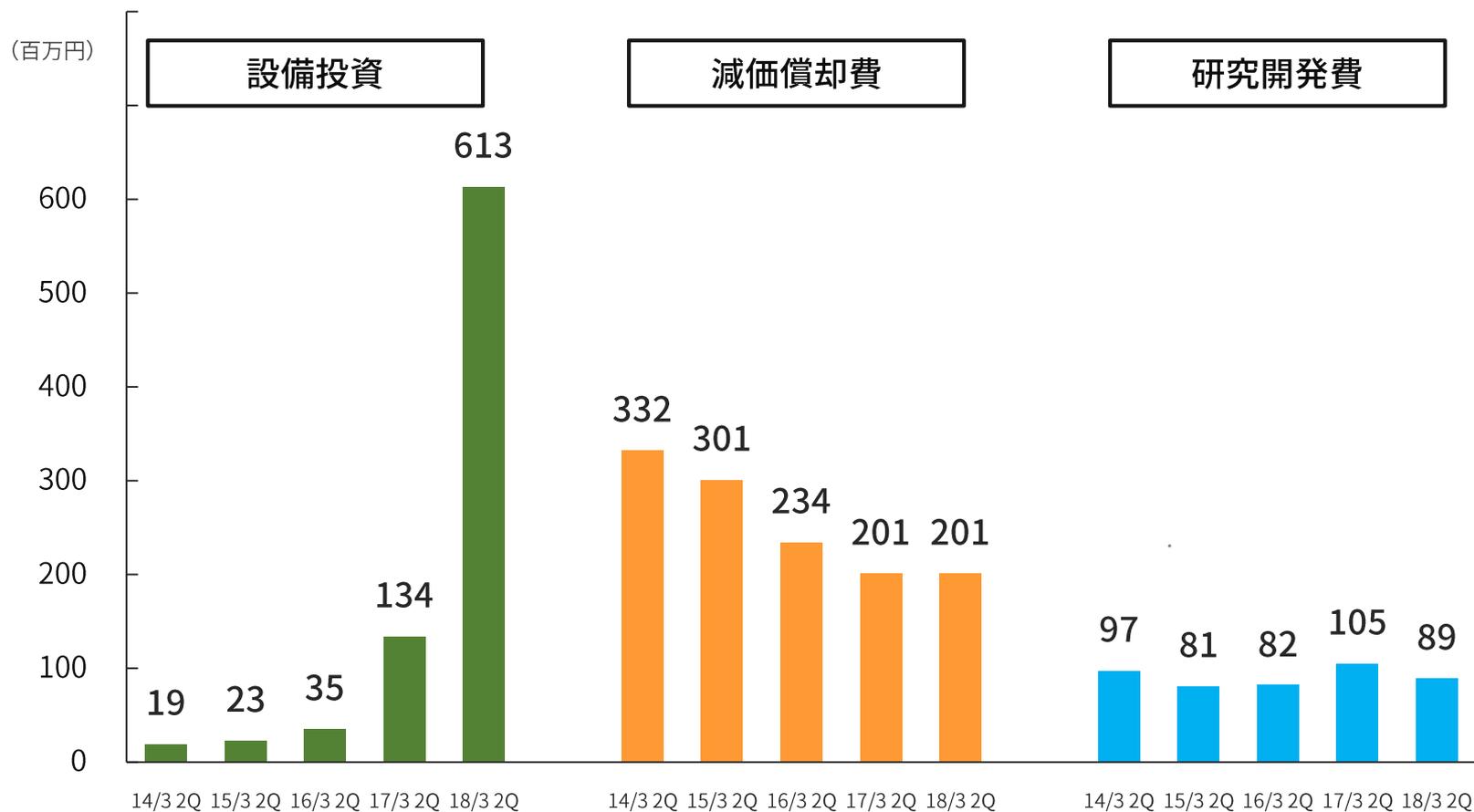


- スマートフォン向けは中国メーカーの生産調整、新機種が生産立ち遅れの影響等から大幅減収
- 無線モジュール向けは、スマートフォン向けを中心に増収

□ 海外売上高：無線通信関連は伸びたものの、スマートフォン向けが振るわず
前年同期比-11.5%



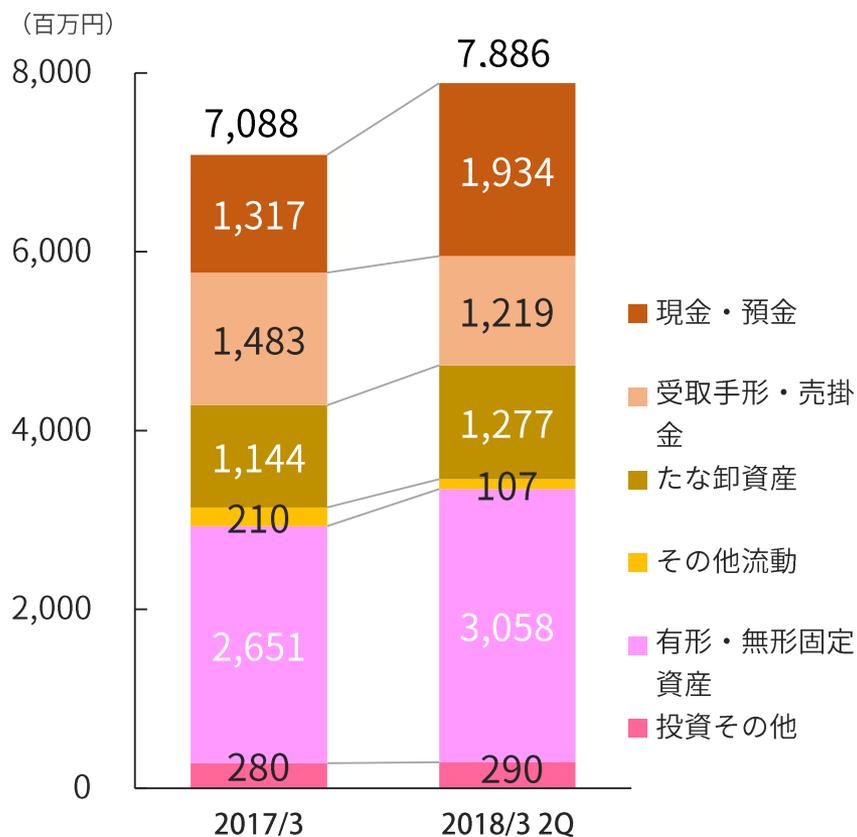
□ 新製品関連の投資が増加（対期初計画では投資時期の先送り）



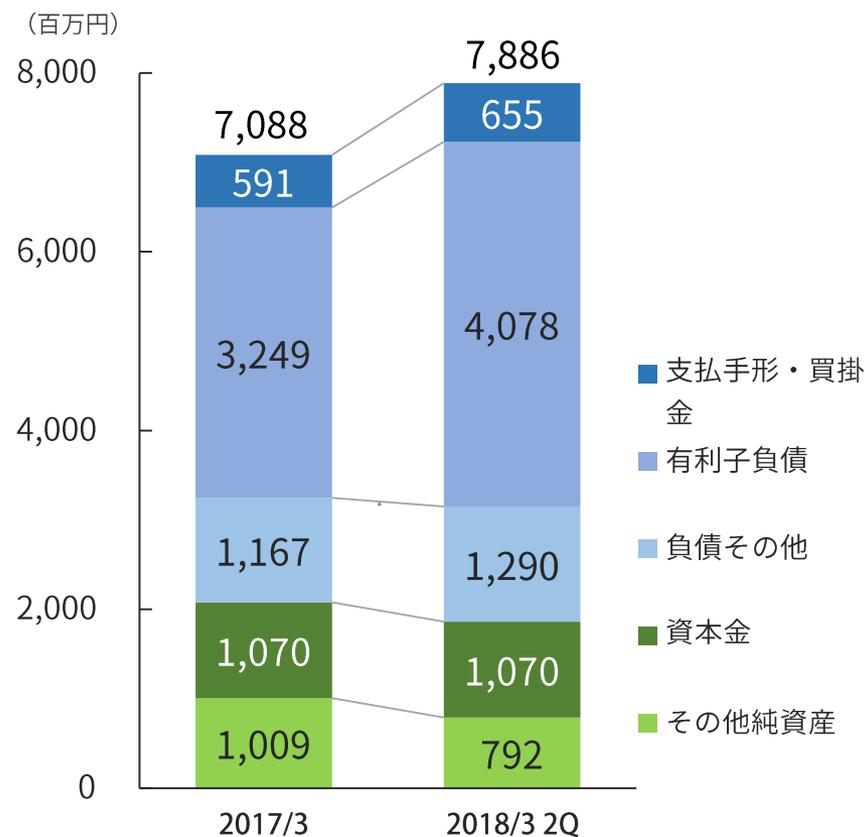
□ 資産：現・預金 +616百万円、機械装置・運搬具 +100百万円、建設仮勘定 +273百万円

□ 負債・資本：有利子負債 +828百万円

資産

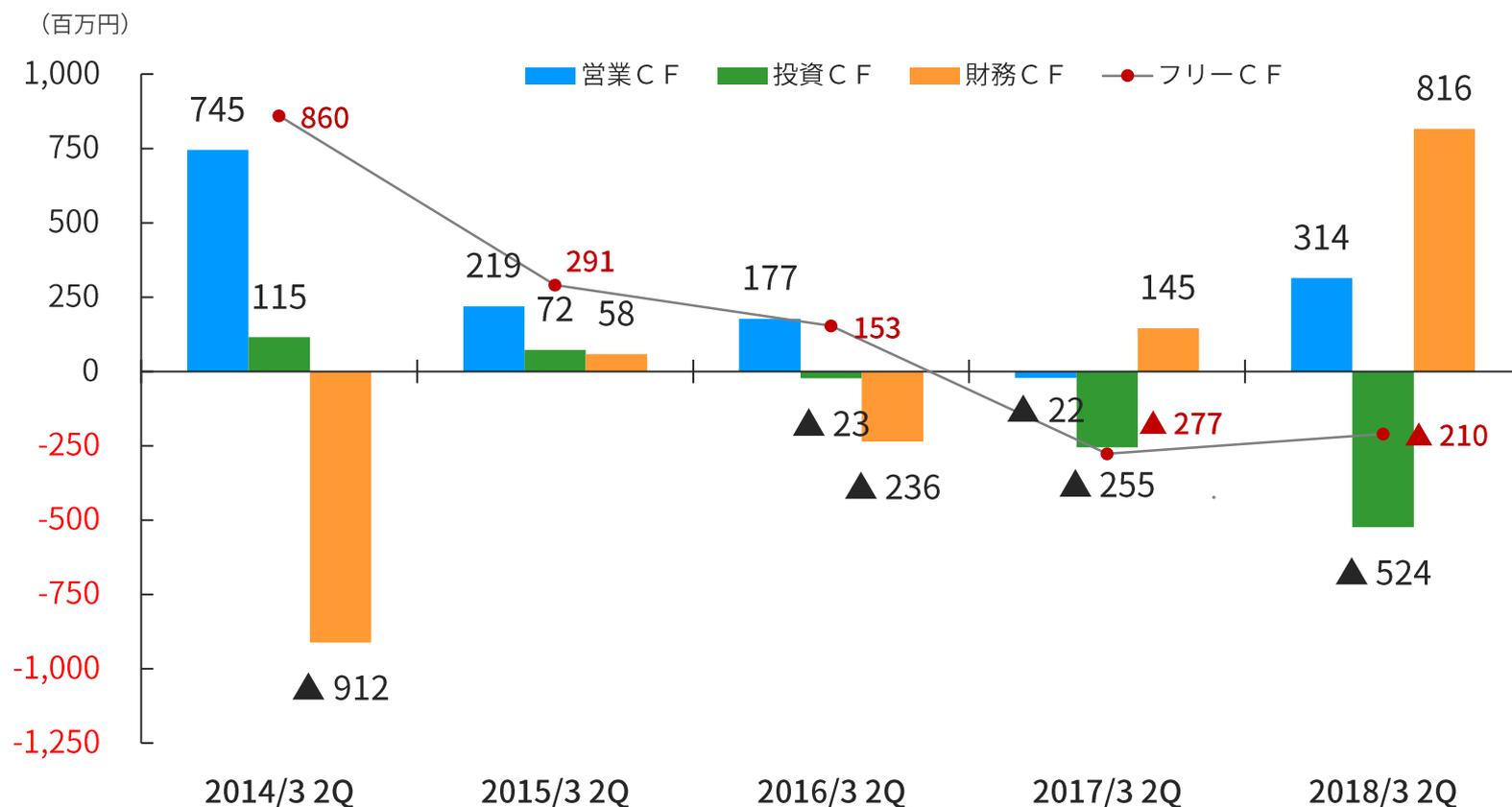


負債・純資産



□ 営業C F：税金等調整前四半期純損失▲209百万円、たな卸資産の増加▲132百万円を計上したものの、減価償却費201百万円、売上債権の減少274百万円などにより314百万円の獲得

□ 投資C F：有形固定資産の取得510百万円などにより524百万円の使用



2. 2018年3月期 通期業績予想

および今後の取り組みについて

代表取締役社長 若尾 富士男

前回発表（'17/5/12）から変更なし

（単位：百万円）

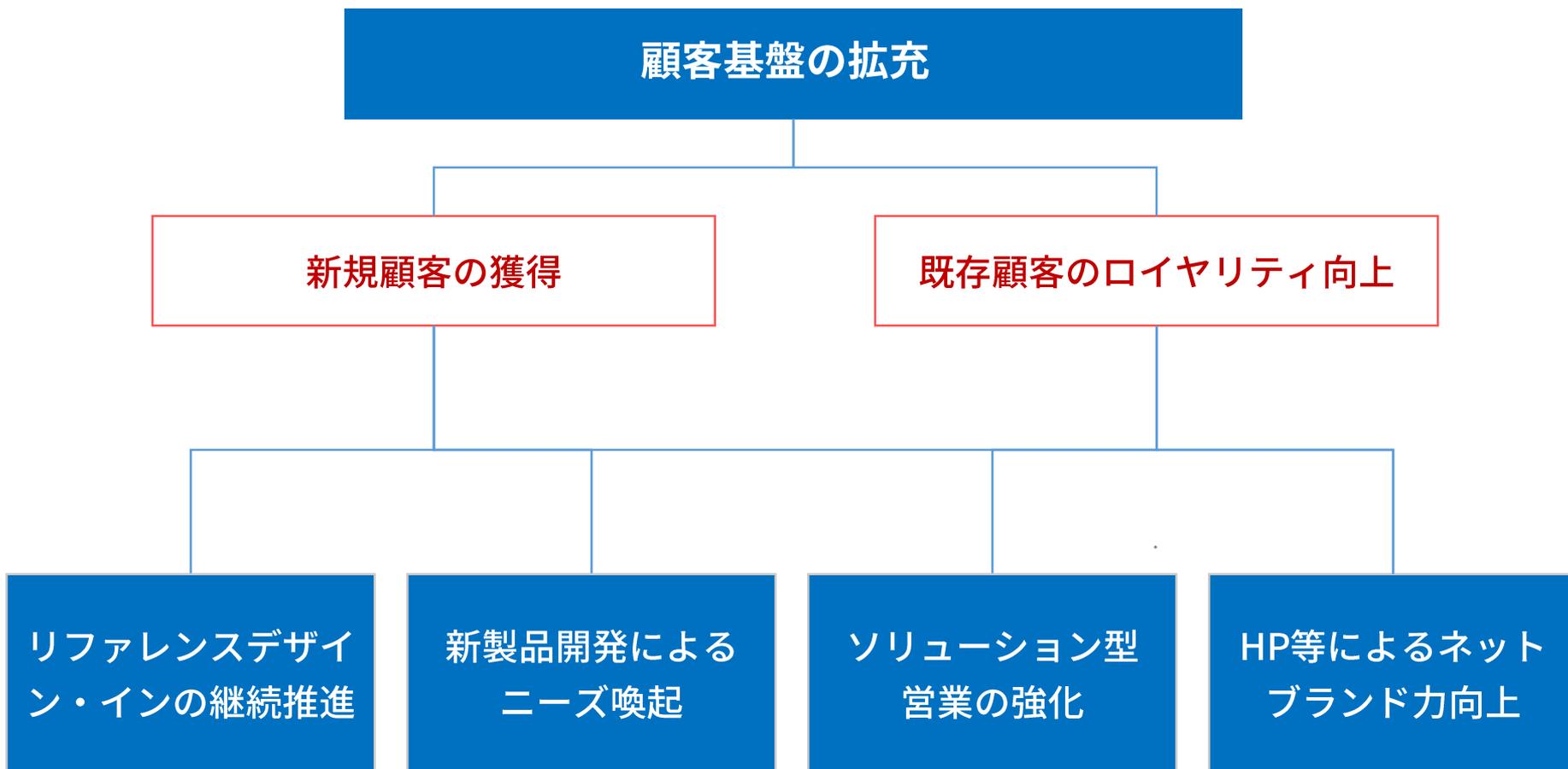
	2017/3期 実績	2018/3期 予想		
			対前年同期 増減額	対前年同期 増減率
売上高	4,957	5,305	347	7.0%
営業利益	△275	171	446	—
経常利益	△263	146	410	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	△278	118	396	—
EPS (1株当たり当期純利益)	△37.77円	16.08円	53.85円	—

※計画為替レートは1US\$=115円で試算

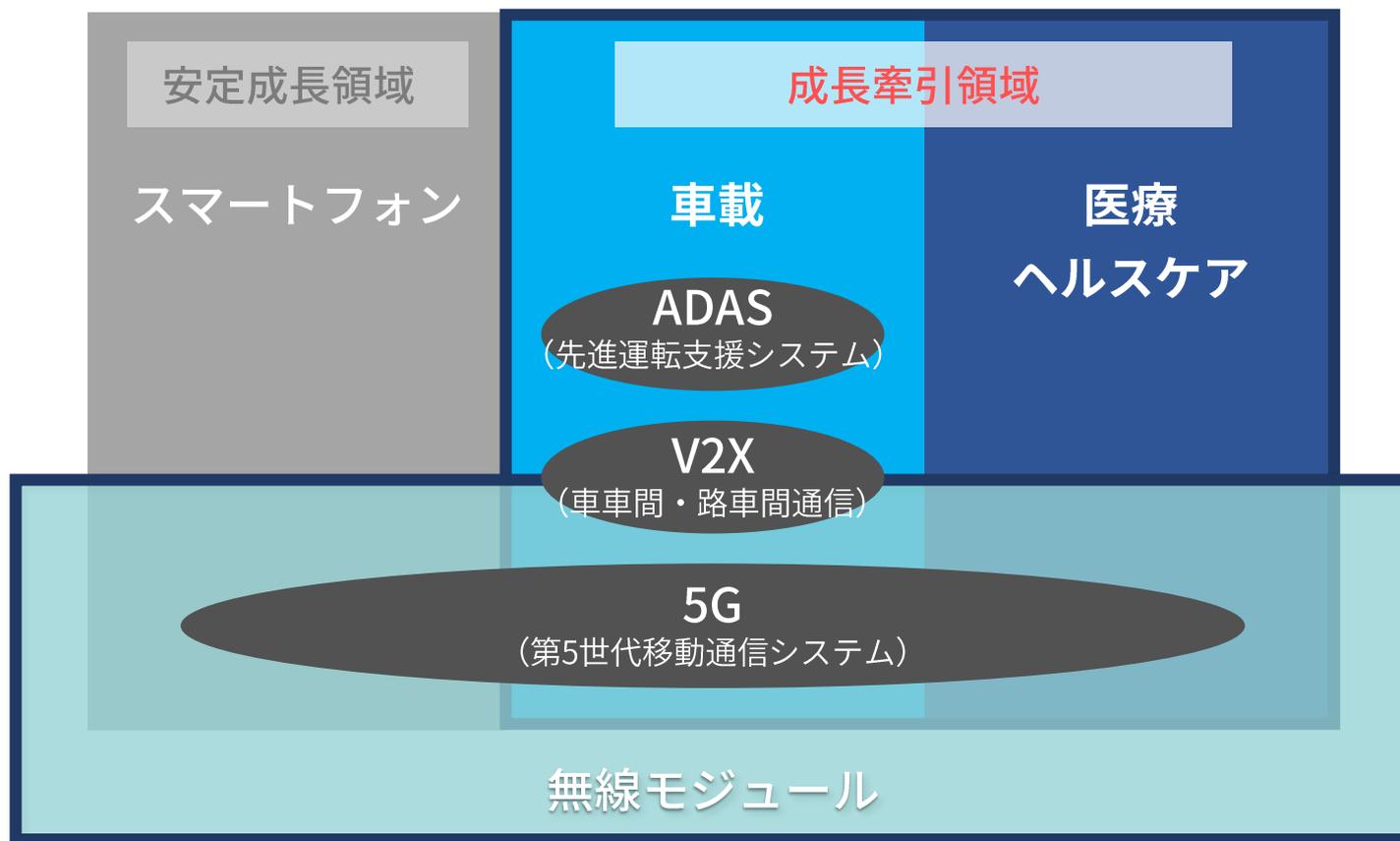
売上高の拡充と原価低減による利益率向上により 2020年3月期営業利益率3%超を目指す

ポートフォリオの再編	プロダクトミックス改善	原価低減活動
<p>顧客基盤の拡充</p> <p>成長領域の拡大</p>	<p>TFX-05 FCX-08</p> <p>Lamb波共振子</p> <p>SAW 新技術</p>	<p>欠陥コスト最小化</p> <p>不動産在庫撲滅</p>
<ul style="list-style-type: none"> ● スマートフォン市場以外の成長市場への展開 ● 無線通信分野への集中 ● 新規顧客の開拓やフォローアップの追求で顧客満足度を高める 	<ul style="list-style-type: none"> ● 新製品TFX-05の拡販 ● 無線通信向けFCX-08の数量アップ ● 高精度Lamb波共振子の用途拡大 	<ul style="list-style-type: none"> ● コア技術の深耕による原価低減を推進する ● リードタイムの短縮 ● 工程トラブルの撲滅

新規顧客の獲得、既存顧客のロイヤリティ向上に向けた諸施策に取り組み、顧客基盤の拡充を図る



IoTの進展、コネクテッドカーの普及拡大とともに急速に成長する「車載」「医療」「無線通信」市場を成長牽引領域と捉え、経営資源を集中していく
(売上高の6割程度を占めているスマートフォン向けへの偏重リスクを軽減)



V2X (Vehicle-to-Everything)



交通の安全性向上

利便性・快適性向上

交通事故・渋滞の低減

自動運転化

環境保護

車とあらゆるものを繋ぐ無線通信システム



日欧米を中心に法制化が進められる

5G

- 強みの小型・薄型・省電力化を活かせる領域
- V2XをはじめとするIoT市場の拡大は水晶デバイスの需要増加に繋がる
- 無線通信分野は、すでに実績があるため、セットメーカーに対して積極的なリファレンス活動も行っていく



10Gbpsの高速化

1000倍の大容量化

100倍の端末接続数

超低遅延

省電力化

従来の無線通信技術の進化を超える変革



本格的なIoT向けネットワークの本命

医療・ヘルスケア



ウェアラブル機器の本格普及

医療分野のIoT・AI化が進展

栄養管理や食生活支援

見守り・買い物支援の充実

服薬をアシストするIoT型の支援デバイス▶

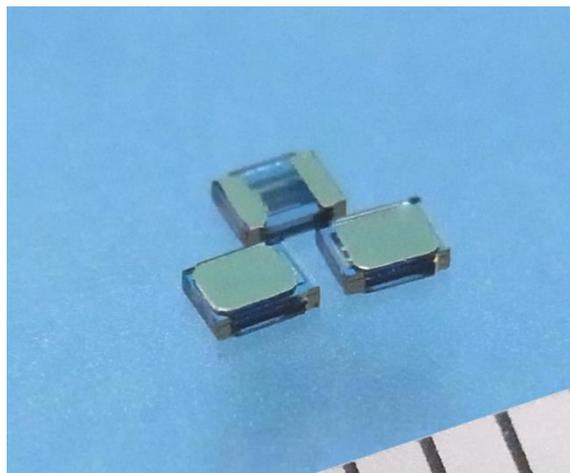
当社の音叉やMHz帯振動子
(Bluetooth向け)が採用

- 高精度な省電力化・高速無線通信技術が今後も求められる分野で、水晶デバイスの需要増加が期待される
- 医療・ヘルスケア技術の進展が進む欧州を中心にワールドワイドな事業展開をしていく



TFX-05 (1.2mm×1.0mm×0.35mm Max.)

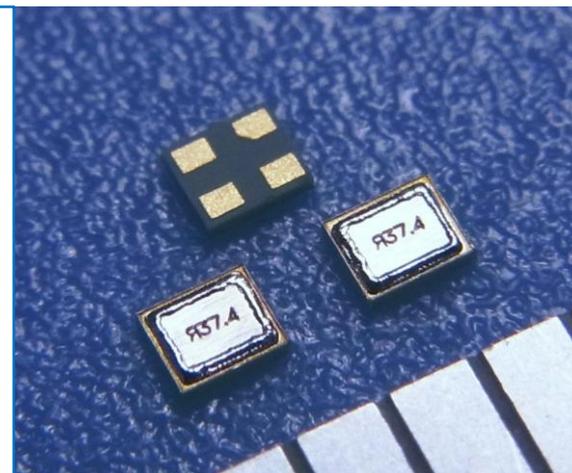
kHz帯・音叉型水晶振動子



- 世界最小サイズを実現した高付加価値製品
- 小型・薄型が要求される無線モジュール、ウェアラブル機器から精度が求められる時計機能まで幅広い用途

FCX-08 (1.2mm×1.0mm×0.33mm Max.)

MHz帯・ATカット水晶振動子



サンプル出荷対応。ユーザー様から従来のTFX-04と同等以上の評価。

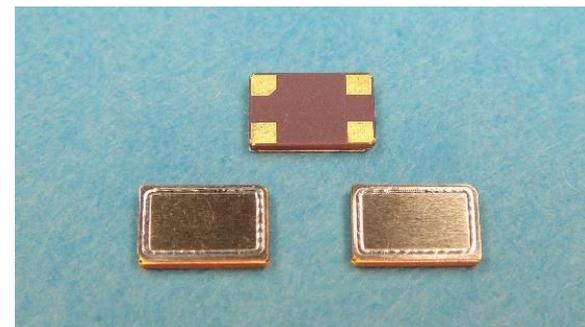
さらに歩留まり改善し、量産出荷が第2四半期以降継続。周波数帯の拡充図る。

第2四半期以降も新製品化率30%をキープして限界利益率向上に貢献していく

Lamb波共振子 (5.0mm×3.2mm×1.1mm Max.)

高精度・水晶振動子

300MHz~1.2GHz



Lamb波振動モードを採用、高品質な高周波発振と広い温度範囲での周波数安定性を実現

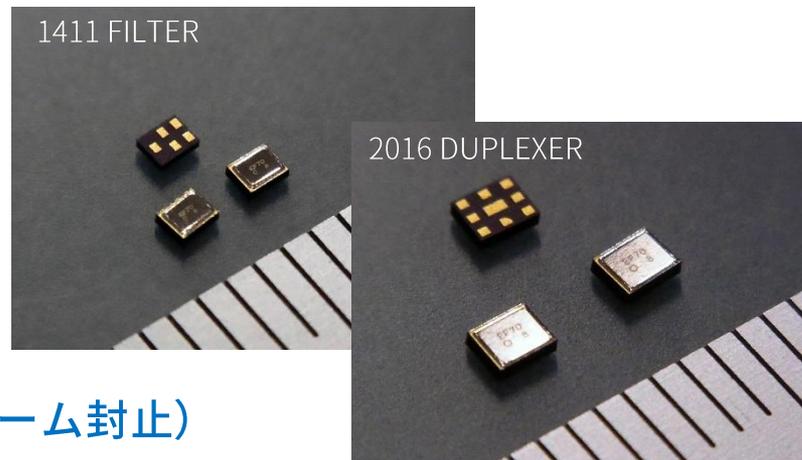
- SAW共振子では対応できない通信の仕様にマッチした新しい振動子
 - 従来のSAW共振子より狭い常温周波数偏差
 - 従来のSAW共振子を圧倒的に凌ぎ、AT振動子に迫る周波数温度特性
 - PLL逡倍発振器と比較し、良好なジッタ特性、位相雑音特性
- 電子ビーム封止による高信頼性、良好な経時変化

様々な機器のクロック用途として、周波数ラインアップの拡充を進める

SAW FILTER ・ DUPLEXER

高信頼性車載フィルター

1411 ・ 2016の超小型サイズ



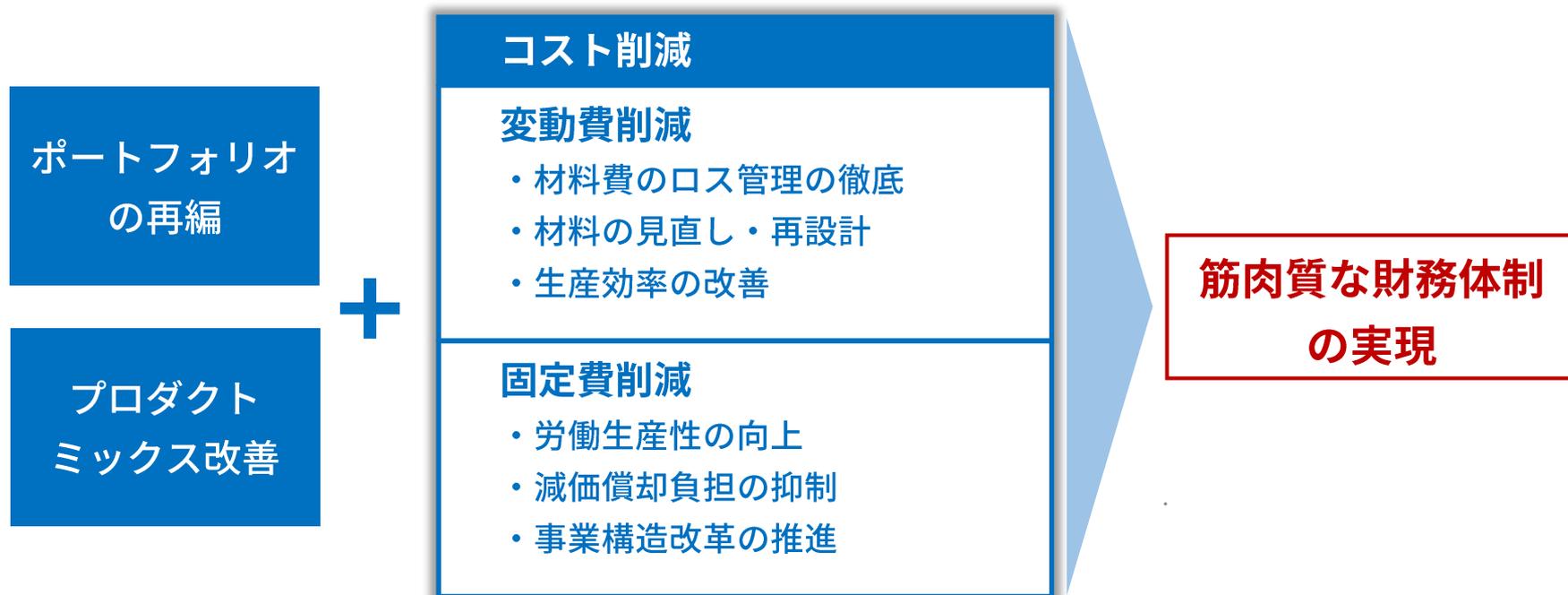
SAWフィルターメーカーへ加工技術（電子ビーム封止）
の提供によって実現した高付加価値製品

- 車載向けに最適化を図り、求められる厳しい信頼性要件をクリアした超小型品
- 当社独自の電子ビーム封止による高信頼性を実現
- 主な用途は、車載用テレマティクス（GPS、ナビゲーションシステム等）



V2Xを中心に需要増大が見込まれる車載向けSAWビジネスへ参入

ポートフォリオの再編、プロダクトミックスの改善とともにコスト削減施策を推進し、筋肉質な財務体質を目指す



配当による還元を第一とし、配当性向20%以上（対連結当期純利益）を最低の目安とした安定的な配当を継続的に行うことに努めます

□ 早期の復配に向けて資本準備金及び利益準備金を取崩し剰余金を処分しました。

平成29年5月25日公表 「資本金及び利益剰余金の額の減少並びに剰余金の処分に関するお知らせ」

	'14/3 実績	'15/3 実績	'16/3 実績	'17/3 実績	'18/3 予想
1株当たり配当金 (年間)	2.00円	—	1.50円	—	未定
配当性向 (対連結当期純利益)	19.6%	—	31.2%	—	

本資料に記載されている、当社の現在の計画、見通し、戦略などの記載は、将来の業績に関する見通しであり、これらは、現在入手可能な情報から得られた当社の経営者の判断に基づいております。

実際の業績はこれらと異なる結果となる場合がありますので、これらの業績見通しに過度に依存されないようお願いいたします。

実際の業績に影響を与えうる重要な要素には、当社の事業領域を取り巻く経済情勢、景気動向、為替変動、当社の事業領域に関連する技術革新や需要変動、当社の開発・生産能力、などが含まれます。ただし、業績に影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

I Rに関するお問い合わせ先

総務部経営企画課

<http://www.river-ele.co.jp/faq/faq03.html>